

第56回OMC映像フェスティバル

10月2日（日曜日）と決定

今年はJR天満駅近くの大阪市立北区民センターのホールの使用について現地調査をした結果、交通の便のよいこと、会場が広く天井高さも高いこと、利用料も特に高くないこと及び慰労会会場が近くに見つかりそうだ、等、従来使用の長堀橋の大阪市立中央会館に比べて良い点が一杯あったので、会場申込に取り組んだのですが、申込者が多く、また行政の使用する日が多くて、なかなか会場確保が困難なことが判明しました。このため従来通り江村幹事に中央会館への抽選会に行って頂き、幸い10月2日の日曜日に会場予約ができました。

プログラム編成は7月29日（金）午後に幹事会にて行います。原則7月例会までの作品より選定します。フェスティバル出品を予定されている方は、頑張っておまとめ下さい。

今年も昨年同様、さすがOMCの発表会だと、来場者の皆さまの記憶に残る作品でプログラム構成したいものです。また各自の自薦作も参考として受け付けますのでよろしくお願ひいたします。

（会長 合原一夫）

第20回大阪アマチュア映像祭は10月30日（日）

恒例の大阪府下の映像クラブ（9クラブ）が作品を出し合って上映会を行うもので、今年も大阪市立中央図書館との共催で、来る10月30日の日曜日13時より開催されます。プログラムは8月19日に行われるプログラム編成会議で決まりますが、第20回という節目の年、良い作品を集めてプログラム編成したいものです。

7月例会のお知らせ

■第2例会、第3木曜21日13時より、美山撮影会公開審査、終了後は一般作品を上映します。

撮影会参加者はぜひ作品出品を。多数ご来場を。

■通常例会、第4土曜23日午後6時より、大阪市立難波市民学習センターにて開催します。

第2例会と間1日しかありませんが、発表会作品候補最後の機会でもありますので、ご出席のほどお願いします。

懐かしの映像を楽しむ会

今や恒例になった懐かしの映像を楽しむ会は、今回で5回目を迎えます。これは大阪アマチュア映像連盟の主催で開催しているもので、8ミリ映画からVHS、ハイエイト、初期のDV作品の中から、作品を集めて、往時の名作劇場を再現しようとするものです。乞、ご期待です。

・日 時：9月2日（金）13時～

・場 所：大阪市立難波市民学習センター 講堂

■予告：OMCフェスティバル、プログラム編成会議

7月29日（金）13時より難波市民学習センター 幹事の方は予定しておいて下さい。

6月通常例会レポート

例会日の28日は梅雨の季節で朝からどんより曇っていて後 小雨模様の日。会員諸氏の集まりが心配されてましたが、23名の集まりと作品は18本が出品され大忙しの例会となりました。結果的に2作品が次回回しとなり、せっかく持参されたのに残念でした。しかし、こうした作品が多くて上映できないものが出る、等ということは全国的に見てもウチだけかも知れません。全く、ぜいたくな悩みで、会員諸氏の元気で作品づくりを楽しんでおられる証でもあります。会長としては感謝、感謝の気持ちです。

今月の司会は柴辻氏、書記、合原氏、上映係、井上氏、河合氏、テープ録画、坪井氏、パソコン録画、江村氏、受付兼照明係は華岡、宮崎両市、黑板への掲示、紙本氏の担当で進行しました。

■出席者：赤澤、有村、井上、稲田、江村、紙本、河合、合原、柴辻、進藤、関、高瀬、坪井、西村、西村(亀)、野田、華岡、前田、宮崎、森口、森下、森田、山本の23氏。

■上映作品（講評は合原会長です）

・課題コンテスト最優秀作品上映（今年のテーマは「野」でした）

草原の野獣 DVD 合原一夫 8分30秒

天王寺動物園では最近、自然に近い形で動物を展示しようと、いろいろ工夫されている。キリンとかライオン、象といった大形動物たちが、のんびり寝そべったり、歩きまわったりしている。そういう姿を見ながら、かつてタンザニアの自然公園で見た野生の動物達の姿を思い出していた。彼らは、生きるために、食うか食われるか、厳しい生存競争にさらされながら生きている。一方、動物園の動物は、餌を与えられ、敵から襲われることもなく、のんびりと生きている。同じ動物として、どっちが仕合わせなんだろうか、という疑問から本作品を描いたものです。

・ミニ撮影会コンテスト最優秀作品

鍋から BD 江村一郎 8分03秒

今年3月17日（木曜日）東大阪の野田金属工業にお邪魔して撮影会を行ったもので、野田さんがOMC会員であることから実現したものです。野田さんは自ら終戦前後のきびしい満州からの引揚げ時の苦労話を本になさっており、題名の「鍋から」は野田氏の現在が「鍋から」出発したとの思い出からまとめられています。本の活字や野田氏のお話の内容をうまく活用して作品にされています。ノンレーションなので表現に限界があるかも知れませんが、現在の進歩している工場製作の状況との関連がもう少し出されていれば、と思いますが、さすがテンポよく纏められていました。

・一般作品上映

1. よさこい '13 BD 江村一郎 8分

よさこい本場の高知での収録。毎年拝見し都度感心して拝見しますが、見ていて安心感があります。唯、少しでも変わった試みをやろうと心掛けられているようですが、こういうテーマで従来からの江村流の編集方法をがらっとかえることは難しいことかも知れませんが、江村作品は短いカットが多いのに音合わせが実に自然でズレた感がないのは毎回驚きの目をもって拝見しています。それだけに音処理に苦労されている事でしょう。

2. カミ坐す隠国（こもれく）の熊野 BD 河合源七郎 9分58秒

ここ2回ほど何故か再生出来なかった河合作品でしたが、3度目の正直、今度はうまく再生できました。熊野は世界遺産にも登録されたところ、古くからの行事や言い伝えなどが今日まで続いています。ラストの熊野大社の火まつりなど、足もとの悪い場所でよく撮影されています。お年に似合わず元気で頑張っておられることに敬意を表します。

3. 因島水軍まつり BD 紙本 勝 12分50秒

むかし瀬戸内海の家賊として君臨した村上水軍。今でも遺跡が残っているようで、作者は村上水軍が活躍した因島あたりを回られて作品にされました。因島水軍城があり、今では博物館になっているようです。毎年、村上水軍まつりが行われており、よろいかぶと姿の戦国武将の装いをした人たちが水軍の出陣式を演じていました。本作品は水軍まつりがテーマになっていますが、まつりそのものは動きがなく、出陣式だけで変化がありません。村上水軍がこの辺りで活躍していたという史実を中心に話を進めた方がよかったかな、と思いましたが、それにしても90歳を越え、あれだけの坂道、石段を上がったたり下がったり、そのお元気さには脱帽です。これからも元気で頑張ってください。

4. フェアバンクス BD 華岡 汪 7分57秒

アラスカの中央にある町の名前で人口およそ3万人、冬はマイナス30度の世界。オーロラ観光地として有名なところとか。まずは博物館見学。次はいよいよオーロラを見に、光の少ない山の上へ移動してオーロラが出るのを待ちます。午後11時になっても西の空は白く、暗くありません。そのうち待望のオーロラが出現。この夜は特によく見えたようです。オーロラはアマチュアのビデオカメラでそのまま撮影しても何も写らないようです。作者はスチールカメラで1枚10秒かけてたくさん撮影されたそうです。平成23年第29回日本を縦断する映像発表会で、埼玉の筒井俊明氏が発表された「光芒の降る丘」で、オーロラをダイナミックな表現で撮影されていたのを覚えています。やはりスチールカメラで撮られ、それを編集のとき連続オーバーラップをかけて、さも動くように細工されたようでした。中央図書館で借りられて一度ご覧になられたら如何でしょうか。大変勉強になると思います。それにしてもマイナス30度の世界へ行って、よく撮られましたね。

5. 旧居を訪ねて BD 有村 博 11分25秒

作者はミャンマーのヤンゴンに生まれて、昭和8年に4歳のときに帰国し、大阪での生活が始まったと、ナレーションで語られています。住吉区東粉浜町に、昭和35年迄の27年間を過ごされたそうです。その頃の思い出の場所を訪ねて当時を振り返っておられます。住吉大社など有名なところが近くに一杯あって遊び場所には不自由なかったでしょう。現在は東大阪市にお住いの作者ですが、人生の大半を大阪という近場で過ごされ、根付いている様子がよく判ります。住吉大社など有名なカット等を少し減らされて10分程度の作品にされた方がよいのでは、と思いました。

6. 桜 雨 BD 前田茂夫 4分39秒

 https://youtu.be/gR_iUpwZfv8

題名の下にSong by JUJUの説明がついていました。歌をバックに雨の日の八幡市背割り堤の桜並木を描いておられます。先月出品された同名の作品を別の角度から構成された作品のようです。局のテンポが心地よい位早いので、ゆったりとしたテンポに合わず、前作の方が良かったのではと思いました。それにしても雨の日の撮影とはご苦労様でした。

7. おわら風の盆 BD 高瀬辰雄 7分50秒

京都の商店街のイベントとして毎年5月おわら風の盆の踊り手が全長800メートルの通りを流して歩くという行事が催されているようです。踊り手たちは本場から来た人たちとあって、アップで撮られたカットでは本場と区別がつきません。作者は、商店街の風の盆を見ているうちに5年前、風の盆本物、越中八尾を訪れたときのことを思い出し、5年前の本場の風の盆の様子を取り入れて、一本の作品に仕上げられています。回想場面はナレーションを使わず、文章として字幕で解説されています。石川さゆりの「風の盆歌」をバックに入れてありますが2番までであり、その間は現地録音なので、2番が必要だったのか、或は中間の現地音をやめた方がいいのか、考えさせられました。しかし商店街の企画行事で、こんな作品が出来るとは、さすが高瀬さんの技量です。

8. 南竿（なんかん） BD 山本正夢 9分10秒

台湾・馬祖伝説が残る南竿島の俯瞰撮影がトップで、中国語で歌うBGMをバックに、南竿島の紹介が続きます。歴史ある島らしく神像などの彫物が多数存在しています。蒋介石立像もありました。中国本土との争いに備えたトンネル等軍事施設が観光の一部として公開されているようです。山本さんならではの珍しい題材の作品でした。

9. まんどう夏2題 BD 進藤信男 8分10秒

みのおキューズモール・ふれあいパーク「かやの広場」での子供ちょうちん行列の行事を記録されたもの。同時に花火大会もあるかなり大がかりな行事のようです。まんどう火祭りと言われたちょうちんを持った子供たちが歌いながら行列。一方竿の両端にたいまつを取りつけて両方の火をぐるぐる回す男一人。その後再び花火があがります。この花火のシーンが長すぎて前半の行事の印象が薄くなっていくのは残念。最後に「まんどう火祭り」の由来が文字で明らかにされますが、これは始めの方に入れた方がよいと思います。また「まんどう夏2題」の「2題」は入れない方が混乱しなくてよいのではないかと感じました。

10. お清水の街（おしょうず） BD 森口吉正 10分30秒

越前大野城の城下町は豊かな水の街であり、北陸の小京都、伝統ある寺院が立ち並んでいます。地下水があふれ現在でも各家庭でこの地下水を汲み上げ、飲料水や生活用水に使われているとか。400年の伝統があるといわれる朝市が賑わっています。名水百選・御清水は今も水飲み場として誰でも飲むことができます。まさに水の都です。

11. 狭山池まつり BD 宮崎紀代子 6分13秒

人・ゆめ・ロマン狭山池築造1400年という説明文がまず出てから狭山池まつりというタイトルが出ます。これは判り易くてよいと思います。花火があがり舞台上での踊り、観光客、屋台等々、現代的祭り風景が続きます。最後は舞台上で大勢で踊っているところで終わりです。狭山池まつりとはこういう祭りなんだ、という記録としては貴重な記録作品かもしれません。

12. 郡上踊り in 京都 BD 野田邦雄 7分13秒

京都府庁前の広場に郡上市からの踊り子一行やってきました。そして本場の郡上踊りを披露しました。広場はお盆が来たような賑やかさです。毎年恒例の行事のようです。郡上踊りは10曲の種類があり、テンポの速いものゆっくりしたもの等、伝統の踊りのようです。

13. 甦った花鳥園 BD 稲田 拡 7分27秒

タイトルには”花と動物と人とのふれあい共生パーク”「神戸どうぶつ王国」とありました。今年5月撮影されたもののようです。花鳥園は経営不振で衣替えしたとのこと。

人と動物とのふれあいをコンセプトにイメージした会場は、家族連れの観光客で賑わっていました。ペリカンの飛翔タイムとか以前見られなかったものもあり、たいへん興味深く感じました。動物たちと子供たちのふれあいと喜びの表情をもっと活かせば、ねらいが明確になったことと思います。それにしても花鳥園が「神戸どうぶつ王国」に衣替えされてることは初耳でした。もう一度行ってみたいくなりました。

14. 北京の旅 BD 赤澤与三郎 14分00秒

お足が不自由されている作者が海外旅行をされたということが驚き。ご家族同行でしょうがその熱心さに敬意を表します。BGMやナレーションを一切入れず現録だけで構成されていますが、よく判りました。

このあと、柴辻作品「與謝野晶子歌碑除幕式」、西村亀雄作品「妻恋道中」次回へ